

浜益 海浜美化清掃キャンペーン 9月17日



秋の海浜清掃に心地よい汗をかく

さわやかな秋空の下の9月17日、石狩市の海岸に出向いて海浜清掃を行った。同市の海岸は札幌の隣町ということもあってキャンプや釣りなどで訪れる人が多いが、海岸に捨てられるゴミも相当なもの。同会のメンバーはゴミの種類と多さにびっくりながらも地元の人とともに清掃活動に汗を掻いた。

「こんなところに鳥が死んでいる」一人の男の子が指を指しながら叫んでいた。皆が駆け寄ってみると、頭にテングス(釣り糸)に絡ませていたカモメの死骸だった。釣り人の放った仕掛けにかかって身動きがとれずに溺れて死んだのであろうか。男の子は「かわいそうだね」と言って、再びゴミを拾い始めた。

この日、当会が海浜清掃を行った場所は、石狩市浜益地区の砂先海岸。海と山、川、森に囲まれ、街には天然温泉があり観光地として知られている。同地区の海岸線は約40キロに及びことから釣り人も多く、夏休みシーズンになると札幌市や近隣から約30万人の海水浴客が訪れる。

砂先海岸は、海水浴禁止地域海岸になっていることから人の出入りは頻繁ではないが、そのせいか色々なゴミが海岸に散在している。この日は冷蔵庫やタイヤ、魚網などの産業廃棄物、ポリタンク、プラスチック籠、バーベキューのコンロ、テレビなど生活用品が至るところにある。中には韓国から流れ着いたと思われるハングル文字の入ったゴミも。

オリエンテーションでは、ボードを掲げながら目標や心構えが発表された。その後3人が一組となってゴミを拾い上げていく。

約1時間半かけて拾い上げたゴミの量は、1トントラックの荷台が満杯になるほど。

石狩市の職員も、「こんなに沢山あるとは思いませんでした。役場の方も清掃したい気持ちがあるのですが、いざ行くとなるとかなり費用がかかるので、このようにボランティアの人に率先して行っていただくと本当に助かります」(木村さん)と語る。



オリエンテーションで目標を発表

一生懸命ゴミを拾う子供たち

釣具にかかった鳥の死骸

ゴミ拾いで自然のすばらしさ体験

北海道の海を日本一美しく！



世代を超え一緒になって交流深める

今回、初めて海浜清掃に参加した札幌市内の高校二年生の塚本興国君は、「自然がきれいなのにゴミがこれほど沢山あるとは思いませんでした。暑い中で一時間半のゴミ拾いはちょっと大変でしたが、きれいになった海を見ると、ゴミ拾いをしてよかったと思います。また、機会があれば参加したい」と感想を述べた。

同会では毎年2～3回の海浜清掃を行っているが、今回は13回目を数える。水崎呈会長は、海浜清掃活動の意義について次のように語る。

「誰も見ていないだろうということで、心に留めずに捨てていくのだろうけれど、自然は与えられたもの。しかも海は生命を誕生させた、いわば“いのちの故郷”ともいふべきところ。そこをきれいにするのは当然のことであるという考えで拾っています」

海浜でのゴミ拾いは、海岸きれいにするだけでなく、自然をきれいにするという心を養う上で教育的に非常に効果がある。しかも親子で参加すれば、両者の絆が太くなる。さらに、都会と田舎の人たちの交流が深まるという利点がある。

北海道海浜美化では浜益地区以外に石狩地区、厚田地区の海浜清掃を行っているが、今年10月には最北の稚内方面まで足を伸ばして、豊富町の稚咲内海岸でも清掃活動を行うことになっている。



感想を述べる大学生

